

機関番号：13801
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2008～2010
 課題番号：20520574
 研究課題名（和文） 戦後における被差別部落表象の他のマイノリティとの比較的研究
 研究課題名（英文） The comparative study on the symbol of discriminated Buraku and the other minorities after World War II
 研究代表者
 黒川 みどり (KUROKAWA MIDORI)
 静岡大学・教育学部・教授
 研究者番号：60283321

研究成果の概要（和文）：本研究は、戦後における部落問題のありようを、部落問題を主題として戦後に製作・上映された映画作品を用いて明らかにした。取りあげた作品は、「破戒」、「人間みな兄弟」、「橋のない川」、「人間の街」、「家族」である。それぞれの映画をめぐる展開された論争や批判のなかに、部落解放運動や同和行政などをとりまく矛盾が投影されており、大衆的基盤をもつ映画を取りあげることで、これまでの運動史や政策史では見えなかった問題を浮き彫りにすることが可能となる。被差別部落の自画像と他者像の相克に視点を当てながら、1945年から現在までを見通して論じた。

研究成果の概要（英文）：This study was done to discuss about Buraku Problem by the analysis of movies after World War II which described Buraku Problem. Their titles are 'Hakai', 'Ningen Mina Kyodai', 'Hashi no nai Kawa', 'Ningen no Machi' and 'Kazoku'. All the movies include many themes about discrimination against the people in Buraku and they caused a lot of arguments in the society. Those arguments reflect the inconsistencies or problems of the movement of releasing the discriminated Buraku people and the governmental policy of Buraku Problem. I could make the reason why there was discrimination against Buraku better and more clearly by analyzing those movies than the studies on the movement or the policy before. This study also discussed the difference between the self image and outsider's image of the discriminated Buraku from 1945 till now.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
総計	1,900,000	570,000	2,400,000

研究代表者の専門分野：日本近現代史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：部落問題、映画、自画像、他者像、表象、人種

1. 研究開始当初の背景

部落問題研究、とりわけ戦後の部落史については、イデオロギーが先行し、研究に値す

るものがほとんど存在しなかった。その問題を克服して、戦後の部落問題のありようをできるだけ等身大に捉えるには、運動史や政策史の枠組を超えた手法が求められている。被

差別部落内外の大衆に広く観られた部落問題を主題とする映画作品の各々をめぐる論争を追うことにより、そこに表現されている部落問題の矛盾を読み解くことができると考えた。

2. 研究の目的

(1)それぞれの作品は、それが製作された時点の部落問題のありようを反映していることから、作品の分析をとおして、戦後部落史を考察する際に重要と思われる時期を照射することである。政治と一定の距離のある映画という芸術作品をとおしてこそ見えてくる側面があるのではないかと考えている。

(2)映画という手段で部落問題を表現することについての、本書でとりあげるそれぞれの時期における受け止め方の相違の問題を明らかにすることである。

(3)各々の時期の、自画像と他者像の相克の変遷を追うことである。

この三つの問題は、それぞれが常に同じ比重で各時期に存在していたのではなく、そのうちのいずれが主要な問題として現れるかは時期によって異なっており、すべてが争点化する場合もあれば、内在してはいても問題として表面に表れない場合もありうる。

第三者がつくり出した映画による部落像／部落民像をとおして、問題を浮かび上がらせ、そこから、運動や政策の足跡を記した文字史料では迫りえない局面を描き出すことを目的としており、また人種主義という視点を入れることにより、他のマイノリティとの比較を行うものである。

3. 研究の方法

映画を主たる資料として戦後史を描くという新しいところみを行った。ただし映像だけの分析に終始するのではなく、映画の制作にいたるまでの議論や公開後の受け止められ方、当該時期の被差別部落の実態などを示す文献史料も用いた。また、「人間の街」については、その舞台の一つとなった松原市に出掛けて、被差別当事者である出演者にインタビューを行い、現在から照射するという方法を採用した。

4. 研究成果

取りあげた映画作品は、「破戒」(監督 木下恵介 1948年、監督 市川崑 1962年)、「人間みな兄弟—部落差別の記録—」(監督 亀井文夫 1960年)、「橋のない川」(監督 今

井正 1969・70年、監督 東陽一 1991年)、「人間の街—大阪・被差別部落—」(監督 小池征人 1986年)、「家族—部落差別を生きる—」(監督 小池征人 1988年)の5本である。

分析結果は以下のとおりである。

「破戒」木下恵介作品が上映されてから市川崑作品までの十数年間、部落差別はそれほど容易に消え失せるものではないことが誰の目にも明らかになったがゆえに、市川作品は、現実に展開されている部落解放運動を意識しつつ、差別からの解放への展望を示唆しながらも、社会的差別がいかに執拗であるかを強く訴える作品となった。

市川作品が「身の素姓」をキーワードに社会的差別との対決に挑んだ作品であるとすれば、ほぼ同時期につくられた「人間みな兄弟」は、国家権力との対決を全面的に意識し、差別の徴表が刻印されることをも辞さず、high classの「新平民」が主人公であった「破戒」にはなかった、資本主義のもとでの被差別部落の貧困の問題を柱にしなが、部落差別の深刻さを訴えたのであった。

つづく「橋のない川」今井作品では、部落解放運動の成長と成熟を背景にそのなかで路線の対立も生まれ、差別の苛酷さを世に問うための戦略をめぐる論争が展開されることとなった。まだ同和对策事業特別措置法が制定されたばかりの当該時期にあっては、「人間の街」や「家族」の段階とは異なり、部落差別の深刻さを押し出すこと以外の自己表象はありえないということについてほぼ議論の余地はなかった。ただし、その際に映像をつうじて発信される部落の実態は、差別の結果生み出されたものにほかならなかった。しかしながら、「人間みな兄弟」でも同様の議論があったように、差別の結果であるはずのそれが、被差別部落の徴表として差別を再生産することになるかもしれない、その危うさをもあえて引き受けてそれを押し出すのか、それともそれは回避すべきなのかの対立が、鋭角的に表われることになったのである。

もはやその論争を再燃させる土壌はなくなったといえよう。しかし、「人間の街」や「家族」、あるいは『差別をこえて』や『被差別部落の青春』にもみられる、差別が今なお深刻であることの告発と、「部落の誇り」の主張との混在は、ある種、その議論の延長線上にある問題だといってよいのかもしれない。

すでに述べてきたことの繰り返しになるが、むろん私も、誇りうる部落の文化や運動を知ることが、「身の素性」の壁を揺さぶるための力の一部となりえているであろうことは否定しない。しかし、「身の素性」の壁を突き崩すためには別途闘いの方法が必要

であり、それはまず優れて「近代」の問題として我々の前にあるだろう。そしてその必要性は、いまだ失われていないと考えている。

一方、「人間の街」上映の二年後、「家族」上映の年、部落解放同盟は、反差別国際連帯を掲げて反差別国際運動（IMADR）を組織した。そして部落問題研究もまた、「外」から問いを投げかけられ、アジア侵略への荷担の点検を迫られてきた。金静美は、松本治一郎ら全国水平社の指導者たちがアジアへの侵略戦争に荷担したことを指摘し、ほぼ同時期に、尹健次は、「日本国民」という概念に自足して部落の歴史を描き続けることは、日本社会が抱えている部落差別以外の差別問題への視野の欠落であり、自らを「絶対的な被差別者」と見なすことにほかならないことを突きつけた。

「人間の街」にも登場した大阪人権博物館が、その後リニューアルを重ねるなかで、1006年12月からスタートした常設展示「差別を受けている人の主張と活動」では、被差別部落の展示の比重が小さくなり、多様なマイノリティに視点が及ぶにいたったのも、そうした状況の反映にほかならない。

それらのマイノリティと同じ土俵に部落問題を押し出すにあたり、今一度、被差別部落がどのように描かれ、部落問題がどのようにとらえられてきたのかを、戦後史のなかで振り返るべく行われた研究である。

本研究は、すでに岩波書店から『描かれた被差別部落』と題して2011年4月に出版され、新しい研究の境地を切り開いたものとして評価されつつある。

同書の目次を掲げておく。

序章 映画の中から浮かび上がる戦後部落問題

第1章 封建時代の亡霊／のしかかる「身の素性」—「破戒」二つの映画作品から—

はじめに

- 1 小説のなかの「破戒」
- 2 映画化・演劇化への期待
- 3 「民主化」のなかの「封建時代の亡霊」
- 4 たちはだかる「身の素性」

おわりに

第2章 国策樹立のなかの自画像と他者像—「人間みな兄弟 部落差別の記録」—

はじめに

- 1 記録映画を製作する—「正しさ」の追求
- 2 映像を振り返る
- 3 部落問題を映像にすること
- 4 「みじめさ」を映し出すこと

おわりに—当事者の語り

第3章 衝突する自画像と他者像—「橋のない川」

はじめに

- 1 嵐のなかの船出
- 2 権力との対峙—天皇制・警察・教師・地主
- 3 部落民の徴表—匂い・身体・人種
- 4 部落問題・部落民の表象—東作品と重ね合わせながら

おわりに

第4章 被差別部落の自画像～今へ—「人間の街—大阪・被差別部落」／「家族—部落差別を生きる」—

はじめに

- 1 「部落民の誇り」という自画像
- 2 自画像をめぐるジレンマ
- 3 突き出される結婚差別問題

おわりに

終章 今、問われていること

あとがき

索引

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

①黒川みどり、近代部落史研究のメタヒストリー、静岡県近代史研究、第34号、2009、pp.20-32、査読無

②黒川みどり、千葉県の戦後被差別部落の労働と運動、千葉県史研究、第17号、2009、pp.62-75 査読有

③黒川みどり、「近代文明」のあり方から差別をとらえる—ひろたまさき『差別からみる日本の歴史』を読む—、部落解放、第604号、2008、pp.82-89 査読無

〔学会発表〕（計2件）

①黒川みどり、二つの映画「破戒」における部落問題表象、京都大学人文科学研究所、人種表象の日本型グローバル研究、2010年8月4日 於；京都大学人文科学研究所

②創られた〈人種〉—近代社会のなかの部落差別、京都大学人文科学研究所、人種の表象をめぐる学際的研究、2009年9月8日 於；京都大学人文科学研究所

〔図書〕（計 8 件）

①黒川みどり、岩波書店、描かれた被差別部落—映画の中の自画像と他者像、2011、総 206

②黒川みどり、平凡社、近代部落史—明治から現代まで—、2011、総 267

③黒川みどり編、解放出版社、近代日本の〈他者〉と向き合う、2010、総 423 頁、黒川「序章 近代日本の〈他者〉と向き合う」5-34

④歴史学研究会編、青木書店、由緒の比較史、2010、黒川みどり「被差別部落民の由緒の語り」、pp.303-336

⑤総合女性史研究会編、朝日新聞社、時代を生きた女性たち、2010、長島淳子、永原和子、石崎昇子、黒川みどり、ほか、pp.86-89

⑥黒川みどり編、解放出版社、2009 年、部落史研究からの発信、第 2 巻、近代編、総 260 頁

⑦黒川みどり・藤野豊編著、有志舎、2009 年、近現代部落史、総 274 頁

⑧竹沢泰子編、岩波書店、2009 年、黒川みどり、〈見えない人種〉の徴表—映画『橋のない川』をめぐって—、pp. 160-186

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

黒川 みどり (KUROKAWA MIDORI)
静岡大学・教育学部・教授
研究者番号：6 0 2 8 3 3 2 1

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし